

5. 小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口ポテンシャル概念に基づく地方都市中心地の勢力変化―北海道を事例として―」
6. 松浦 司（中央大学経済学部）
「希望子ども数の決定要因分析」
7. 鎌田健司（国立社会保障・人口問題研究所）
「2005年以降における出生力変動の地域格差とその要因」
8. 石井憲雄（東北大学大学院）
「近年の TFR 回復における都道府県間差異に関する研究」

（鈴木 透記）

2012年韓国人口学会定期学術大会

2012年韓国人口学会（会長：李承旭ソウル大学校教授）定期学術大会は、2012年9月7日（金）～8日（土）の二日間にわたり、釜山広域市 Bexco において開催された。この会場は、2013年10月の国際人口学会大会（XXVII IUSSP International Population Conference）の会場にも予定されている。日本・韓国・台湾・タイの4カ国協定により、各国人口学会会員は相手国の人口学会に加入せずに大会に参加できる。この協定により、日本人口学会から小島宏会員（早稲田大学）、聶海松会員（東京農工大学）および筆者が参加し、英語で報告を行った。

9月7日（金）は、大学院生セッション以外では「人口住宅総調査」「Marriage」「統計に現れた性差」「将来推計の方法論」「婚姻と出産」の各セッションが行われ、小島会員は「Marriage」部会で“Religion and the Timing of Family Formation in East Asia”と題する報告を行った。9月8日（土）は「歯科衛生学と人口学的諸要因」「老人の生活」「Elderly People in East Asia」「老人の口腔健康」の各セッションが行われ、「Elderly People in East Asia」部会で聶会員が“Demographic Transition and Challenges Facing an Aging Population in China”，筆者が“Elderly People Living Alone in Eastern Asia - Comparison of Japan, Korea and Taiwan”と題し報告した。またこの日は「婚姻移住現象に対する人口学的照明：アジアの脈絡から」と題する特別セッションが行われ、ベトナムのホーチミン国立大学の Hong Xoan Nguyen 講師が送出国、培材大学校の李惠景教授が受入国の立場から報告（英語）を行い、三人のパネリストが討論に立った。

（鈴木 透記）

2012年度統計関連学会連合大会

2012年9月9日（日）～12日（水）、2012年度統計関連学会連合大会が開催された。2012年度統計関連学会連合大会は、統計関連学会連合の6学会（応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会）の共催であり、9日はチュートリアルセッションと市民講演会、10日からは北海道大学高等教育推進機構で本大会が開催された。

参加者総数は824名、発表件数は368件であり、内訳は大会特別セッション（5）、企画セッション（84）、一般セッション（248）、コンペセッション（27）、デモンストレーション（4）となっていた。

筆者は「人口統計」のセッションにおいて、「日本版死亡データベース（JMD）の開発と死亡分析への応用」について報告を行った。今回はこれ以外のセッションに参加できなかったが、このセッションでは、寿命のハザードモデルや Lee-Carter モデルの改良など死亡研究に関するものの他、同居児

法を用いた有児就業女性の出生率推計や婚姻の生命表分析に関する研究報告が行われ、活発に討論が行われた。
(石井 太記)

2012年度日本建築学会大会（東海）

2012年度日本建築学会大会（東海）は、9月12日（水）～14日（金）の3日間、名古屋大学東山キャンパス（名古屋市）において開催された。1万人近い登録参加者に加え、記念講演「漂うモダニズム」（榎文彦名誉会員）や記念シンポジウム「名古屋・愛知・東海の防災とまちづくり」など一般公開された企画には多くの市民の参加があった。建築計画や都市計画などの計画系の分野は、人口や世帯にとっていわば器である住宅やそれを取り巻く環境を対象とするもので、日頃とは違った視点からの研究成果に触れることのできる機会である。研究報告では、数年来の流れであるコンパクトシティ研究のほか、住宅のミスマッチなど、人口減少社会における居住の再編に着目したものも隆盛である。人口・世帯研究に関連するおもな報告を以下に挙げる。

- 「交通施設の整備状況に着目した地方都市の人口動態の地域的特徴」……………小川宏樹（和歌山大）他
「三重県四日市市における公共交通沿線の人口増減の実態と課題」……………浦山益郎（三重大）他
「都市縮小期（アーバンシュリンケージ）の人口構造 世界的文脈と我が国の特徴」
……………海道清信（名城大）
「ロジック型居住地選択モデルの新しい導出方法」……………本間健太郎（東京理科大）他
「メッシュデータを用いた東京近郊における人口減少の要因分析」……………小倉匠人（東京都市大）他
「将来人口推計比較による被災地における転出超過の分析 茨城県を対象として」
……………小林隆史（東京工業大）他
「住宅の機能を代替する施設立地と生活行動による人口分布の分析」……………鈴木達也（首都大）他
「住宅と居住世帯のミスマッチ問題における実態と地域性の分析」……………五十石俊祐（筑波大）他
「出生における住環境の役割 山形県と沖縄県の比較分析」……………井原弘策（神戸大）他
「世帯の家族類型変動における地域差の検討 全国調査の結果から」
……………小山泰代（国立社会保障・人口問題研究所）
(小山泰代記)

日本家族社会学会第22回大会

本大会は、2012年9月16～17日にお茶の水女子大学で開催され、参加者は300人と盛況であった。17日午後に行われたシンポジウム「育児と介護の家族戦略」では、育児戦略と見えない統制—育児メディアの変遷から（天童睦子）、介護の家族戦略—規範・選好・資源（上野千鶴子）、家族戦略？—個人戦略と公共政策の狭間（武川正吾）の3報告がなされた。会員企画による5つのテーマセッションでは合計20の報告がなされ、自由報告では、仕事と生活、多様な家族、介護と葬送、親と子ども、出産、結婚・夫婦、世代間関係・親族、家事・育児の8セッションで合計28の報告がなされた。テーマセッションと自由報告では、質的手法による研究の数が量的調査に基づくものを上回っていた。

社人研で実施している全国家庭動向調査や出生動向基本調査で扱う内容と特に関連のある報告は以下のとおりである。